

交通渋滞実態調査について

1 目的

昨今の人口増加及び企業立地に伴い、町内全域で朝夕の通勤時間帯をはじめとして、交通渋滞が発生していることを踏まえ、交通渋滞状況の調査を実施し、渋滞状況を把握し今後の渋滞対策の基礎資料とすることを目的とする。

2 日時及び箇所数

東部地区：令和5年7月24日（朝）10箇所《晴れ》（夕）11箇所《少雨》

調査時間：（朝）7：00～9：30（夕）17：30～20：00

3 調査方法

- （1）右折状況計測（朝のみ15分間隔 信号時間計測11回測定）
- （2）滞留長測定（15分間隔 11回測定）
- （3）渋滞状況撮影

4 結果

※滞留長は前回との比較のため7回(7:00～8:30)の平均の延長。

（1）通勤時間帯（7:00～9:00）

第2回調査の滞留長と比較して、調査対象箇所10箇所のうち9か所で減少しており、約-78%～+58%の増加率となっていた。

特に南方大人足線と県道大津植木線交差点が-78%（466m→101m）、国道57号が-50%（700m→349m）、県道熊本菊陽線が-74%（749m→196m）、菊陽空港線と国道57号の交差点の右折レーンが-36%（220m→141m）と大きく減少していた。

県道大津植木線については、セミコンテクノパーク及び原水工業団地への出勤のため各路線から車両が集中する路線であるが、南方大人足線との交差点において、左折専用レーンに渋滞はなく、大津方面への直進レーンのみ+59%（211m→336m）と増加していた。

（2）退勤時間帯（17:30～20:00）

滞留長は、調査対象箇所11箇所のうち9箇所で減少しており、-74%～+41%となっていた。

路線別では、県道大津植木線の古閑原上堀川線との交差点では-74%（459m→121m）、県道新山原水線の県道辛川鹿本線との交差点では-62%（156m→59m）、南方大人足線の国道57号との交差点は-28%（1200m→864m）とセミコンテクノパークの退勤路線において大きく減少していた。

(3) 右折矢印信号

南方大人足線と県道大津植木線の交差点は、直進方向の時間が前回の約50秒から約53秒と長くなっており、右折矢印信号も前回約15秒から約18秒に長くなっていた。

菊陽空港線と国道57号の交差点は、直進方向が前回の約30秒から約28秒に短くなっていた。右折矢印信号は前回の約20秒と変わらない。

町道古閑原上堀川線と県道大津植木線の交差点は、直進方向の時間が前回の約37秒から約35秒と短くなっており、右折矢印信号も前回の約19秒から約15秒と短くなっていた。